

第三節 機雷掃海及爆雷關係兵裝艤裝

第一項 機雷兵裝艤裝

三十七、八年戰役中驅逐艦ヲ以テ甲種機雷敷設ヲ行ヘシコトアルモ極メテ臨機ノ施設ニ止マリ掲記スルニ足ラズ而カモ爾後此種施設ハ全然採用ニ至ラズ今日ニ及ベリ乙種機雷(一號機雷)ニ就テハ別ニ第五編第二章ニ於テ一併詳述シ置ケルガ故ニ茲ニ贅セズ

第二項 掃海兵裝艤裝

驅逐艦ヲ掃海ニ用ヘシハ三十七、八年戰役後半ニ始マレルハ既述ノ如クナルモ未ダ特種ノ施設ヲ見ルニ至ラザリシガ戰後掃海訓練ノ漸次勵行サルルニ及ビ驅逐艦水雷艇ニ掃海設備加裝方要求ノ聲漸ク瑣ビシキニ至レリ而カモ尙長期間ニ互リ統制アル施設ヲ見ルニ至ラザリシガ世界大戰ニ於ケル掃海作業

ノ重要性ニ刺戟セラレ大正七年三月先ヅ海軍々令部ヨリ左記ノ作動ヲ見タリ

大正七年三月三十日海軍々令部次長ハ海軍次官ニ對シ左ノ通商議セリ

驅逐艦水雷艇ニ掃海設備加裝ノ件

驅逐艦水雷艇ニハ掃海作業ニ對スル設備不充分ナル爲掃海實施上不便尠ナカラズ依テ略左記程度ノ簡單ナル施設ヲ爲シ一層作業ニ便ナラシムル様可然取計ヲ得度

右協議ス

記

(イ) 艦尾ニ索具ノ走出揚收ニ便ナル如ク「ローラー」ヲ附スルコト

(ロ) 成ルベク艦尾ヲ「クリーアー」ニシ尙爲シ得レバ必要ノ程度ニ懸シ甲板面ヲ擴ムルコト

(ハ) 艦尾ニ近ク適宜ノ位置ニ「アリツク」座ヲ設クルコト

(ニ) 曳索取附用トシテ適宜ノ位置ニ強固ナル曳船裝置ノ如キモノヲ設クルコト

(ホ) 艦尾ニ近ク掃海具懸垂ニ便ナル如ク裝脫可能ノ簡單ナル設備ヲ設クルコト

(註)以上ハ一號機雷ノ使用ヲ妨ゲザル程度ニ於テ掃海作業ニ便ナラシムル如ク設備スルコトヲ要ス

茲ニ於テ翌八年七月驅逐艦水雷艇ニ對シ右商議ニ準ゼル掃海設備ヲ逐次實施セリ

之ヨリ先キ大正六年驅逐艦裝載ノ機雷及掃海具ニ就キ審議スル所アリシガ爾後ノ狀勢ニ鑑ミ大正十一年驅逐艦搭載兵器調査委員會ニ於テ主トシテ一號機雷、各種掃海具及爆雷等ノ裝備標準ニ就キ調査ノ結果夫々之等兵器ヲ分割裝載スルコトニ決シ新ニ三號掃海具裝備ノ一、二等驅逐艦ヲ見ルニ至レリ即チ大正十一年ニ於テ二等驅逐艦ニ在リテハ第二十五驅逐隊(梨型)ニ大正十三年ニ於テ一等驅逐艦ニ在

リテハ第四驅逐隊(羽風型)第五驅逐隊(朝風型)ニ各裝備セルヲ嚆矢トス

(備考)浦風ハ大正八年十一月ヲ以テ眞頭之ヲ裝備シ實掃ニ從事ス

驅逐艦裝備ノ掃海兵器ノ種類數量等ニ至リテハ掃海兵器ノ進歩ト共ニ其ノ都度改變アリシモ要スルニ各時代ニ於ケル最新掃海具ノ一種以上ニ就キ各其ノ一式以上ヲ裝備シ關係附屬兵器々々具等亦之ニ準ゼリ而シテ大正十五年起工ノ吹雪型大型驅逐艦ニハ當初三號掃海具ノミ搭載豫定ノ處昭和三年九月掃海具ハ一切之ヲ搭載セザルコトナレリ

(備考)驅逐艦ニテ専ラ掃海任務充當ノ爲兵裝裝替ヲ爲セルモノ多シ即チ先ニハ第八驅逐隊(陽炎級)第六驅逐隊(初代神風級)等近クハ第十八驅逐隊(海風級)等アルモ之等ハ掃海艦艇ノ部ニ別説ス

先ニ掃海規則ニ依リ掃海教練ニ從事スル驅逐隊、艇隊防備隊ニ對シテハ所要消耗用兵器ヲ供給スルノ制ヲ始メシガ(大正八年一月二十二日内令兵第一號)爾後訓練及掃海兵器ノ進歩ニ從ヒ供給兵器及數量ニ異動アリ

第三項 爆雷兵裝裝

世界大戰ハ潜水艦ノ兵術ノ能力ノ豫期以上ナルヲ觀取セル結果之ガ對抗策ニ就キ列強ノ研究ヲ高調セシムルニ至リ驅逐艦ニ於ケル爆雷兵裝ノ如キモ亦其ノ有力ナル一對抗手段タルニ至レリ我國ニ於テハ漸ク大正七年前後ヨリ之ガ研究ニ着手セシガ事實之ガ裝備ヲ見タルハ實ニ大正十四年第四驅逐隊(羽

風型ニ於テセルヲ嚆矢トス而シテ當時ニ於テ本兵器ニ對スル當局ノ意嚮ハ左記大正十一年參謀長會議ニ際シ軍令部次長ノ口述ニ依リ其ノ一端ヲ窺ヒ得ベシ

一、將來建造ノ驅逐艦ハ總テ大型トセラルベキ豫定ナリ浮風級及樞級使用實驗ハ遺憾ナク之ヲ應用セラルベシ

二、驅逐艦ノ任務ハ愈々繁雜ヲ加ヘ從ツテ搭載兵器モ魚雷砲類ノ外機雷、投下爆雷、發射爆雷、掃海、聽音器等益々其ノ要求増大

セリ是等ノ裝備按配ニ就キ目下委員會ニ於テ銳意研究中ナリ艦隊ノ作業ニ於テ攻究ノ結果詳細ナル意見提出アランコトヲ望ム

而シテ驅逐艦ノ對潜水艦兵裝トシテハ爆雷砲ハ必須ノモノトナレリ而カモ一面ニ於テ爆雷及機雷ノ併裝ハ驅逐艦ノ艤裝ヲ著シク困難ナラシメムトス即チ兩者裝備ノ標準又ハ其ノ按配等ニ對シテハ慎重ノ攻究ヲ要スル處ナルガ大正十三年度參謀長會議ノ際ニ於ケル本件ニ關スル諮問答申意見ニ見ルニ比較的爆雷ヲ重視セルモノ多キハ恰モ當局ノ所見ニ合致セルモノナリキ蓋シ爆雷ハ潜水艦ニ對スル殆ド唯一ノ武器ニシテ各種艦船中驅逐艦ハ最モ其ノ使用ニ適スルモノナリ而シテ機雷ハ我欲スル時、處ニ使用スルモノナルニ反シ爆雷ノ使用ハ敵ニ依リ將來ノ海上作戰ニ於テハ隨時隨所ニ其ノ必要ヲ感ズベケレバナリ固ヨリ一號機雷ハ輕視スベキニアラザルモ畢竟魚雷ニ對スル補助兵裝ニ外ナラズシテ其ノ裝備標準ハ魚雷トノ相對的價値ニ左右セラルベキモノナリ同年九月機雷ニ關シ大規模ノ實驗ヲ行ハントセルモ(別記第五編第二章第二節參照)實ニ此ノ關係ヲ闡明センガ爲ナリ而シテ爆雷機雷裝備ノ具體案ニ就テハ本實驗ノ成果ヲ徴シタル上更ニ考慮セラルルコトトナレリ

爆雷指揮通信装置ハ大正十三年初頭不取敢爆雷兼掃海指揮通信装置トシテ第五驅逐隊以下ニ裝備セラレシガ爾後水雷戰指揮装置制式ニ依リ統制裝備サルルコトトナレリ